

友の会通信

【ベテラン】

博物館が大好き！

博物館学 奥野花代子

――すべての人に優しい博物館をめざして――

人から「ご専門は？」と聞かれると、小さな声で「博物館学」と答えています。その後、「どういう事をするのですか」と聞かれます。一般的には馴染みが薄いと思いますが、「博物館とは」、「博物館が利用しやすいプログラムを展開、提供するにはどんな取組みをすれば良いのか」等、自ら問う学問なのです。当館では私だけですが、兄弟館の県立歴史博物館には担当者が3人おります。全国の博物館では専門に携わっている人が少ない分野です。博物館・美術館・資料館・記念館・科学館・水族館・動物園・植物園、みな、いわゆる「博物館」ですが、展示を観る、何かを体験することに加えてもっと楽しめる博物館になっています。例えば、一流のレストランが入っていて食事を味わう、コンサートを楽しむ、ミュージアムショップで買物をするなどです。



私は、今「目の不自由な方々に博物館を利用して楽しんでいただくにはどうしたらよいか」を課題としております。友の会の方々にも誘導・案内ボランティアとしてご協力頂いておりますが、このたび、視覚障害者の方が一人でエントランスホール内の目的場所に行かれるよう赤外線と電波を使った誘導・案内装置を開発し、3月20日の完成をめざしています。

また、神奈川県西部地域の博物館が毎月1回、各館園をつなぎながら開催している“ミュージアムリレー”の取りまとめをしています。県内には多種多様な博物館が300余館、全国では8,000を越えています。いろいろな博物館で新しい発見をして

下さい。
 ○● ●● ○● ○○ ●○ ○● ○●
 ●○ ○○ ●○ ○○ ○○ ○● ●○
 ○○ ○● ●○ ○○ ○● ●○ ○●
 オ ク ノ カ ヨ コ

職員紹介

【若手】 虫愛ずるオジサン(ちょっと前までオニイサン) 昆虫 苅部治紀

僕の担当は昆虫です。博物館の中でも特にお子さんに人気が高い分野でしょう。僕自身の虫とのかかわりは、多分物心ついた頃からでしょう。ただし、僕の生まれ育ったのは、横浜市の中でも特に環境のヒドイ鶴見区。不幸中の幸いか、実家は近所に大きなお寺などのわりと緑が多い場所で、セミやバッタ、たまにはコクワガタなどは採ることができました。小学校に入ってから野球・高学年ではサッカーばかりやりました。

再び虫をやり始めたのは、中学に入ってからです。友達と徹夜でアキアカネの羽化を観察したり、3年生の夏休みには友達を誘って、ヒメタイコウチという水生昆虫を採りに名古屋近郊まで行ったりしました。トンボにはまったのは、高校1年の5月に現在ではトンボの楽園として知られる、静岡県磐田市にある桶ヶ沼谷へ行ったのがきっかけでした。この頃多

くのトンボ好きの先輩方に会い、専門の雑誌に報文を書いたり、県内の調査・採集にはげみました。

当然のごとく浪人した後(予備校にも午前中採集して、そのまま竿をかついで行ったりしてました)、大学は昆虫の研究のできるころに進みました。ここでも先生・先輩に恵まれ、虫の専門家へひた走りしました。南西諸島から始まって、マレー半島やボルネオなど、海外へも盛んに調査にでかけました。

3年時に分類学を専門にしようと心に決め、その後、いろいろ寄り道もしていますが、生活のパターンは、ずっーと虫中心で今に至っています。

もし、昆虫に興味があれば、まずは博物館の観察会から参加して、ぜひ虫たちの世界をのぞいてみてください。虫愛ずるオジサン(まだ自分ではオニイサンだと信じている)がご案内させていただきます。

櫻井コレクションに接した至福の時

(2/11、博物館ボランティア体験講座で発表されました。

友の会・地学ボランティア

他に、昆虫ボランティアで友の会の町田誠さんの発表もありました。)

蛸子貞二

先頃、櫻井鉱物コレクション約2万点の種別分け作業が、沸石 zeolites 族をもって終わりました。

国立科学博物館に贈られた日本産鉱物基準標本以外の研究標本がこの博物館に寄贈され、そのすべてを今回見ることが出来たのです。コレクションの中には私に関わっていた鉱山産のものや訪れた数々の鉱物産地のものが含まれていました。それらを手にしながらの一時は、交誼を賜った多くの人たちの来し方に思いを馳せる、また命のない自然物の代表とは思えない秩序ある鉱物の美しさ・多様さに生命の息吹・創造主の御業を実感した至福の時でありました。まさにボランティア冥利に尽きるといえましょう。

種別分け作業は博物館標本登録作業の入口です。梱包解き作業から始まった整理作業は、その幾つかを特展「櫻井コレクションの魅力」に供した後、コレクションに相応しい基準による(1)種別分け (2)博物館ラベルの作製 (3)収蔵 (4)登録 に進みますが、今はその(1)を終え、(2)および(3)の途上にあります。

昨年の8月、加藤昭先生(当館客員研究員)から頂いた分類表は、石墨に始まる元素鉱物からツコ石という馴染みのない酸化ウランに炭素の付いた有機鉱物まで

12族1058種に及ぶものでした。このリストに従って**約2万点**の鉱物を各種ごとに層別していきます。

1種で100個を超すものもあります。分けられた同種の鉱物群は加藤先生により、もう一度種名が確認され博物館ラベルが作られます。手書きによるこの作業は非常に大変です。コレクションには櫻井先生がその時々我身边にあった例えば新聞紙の切れ端などに「ちょこちょこ」と走り書かれたものが数多くあるからです。そのわずかな情報から正しい産地名を探し出す作業は加藤先生にしか出来ません。

ラベル作業はまだ全体の半ばです。順次出来上がったラベルは私の手で本体と共に標本箱に入れられ、初めて博物館標本となります。標本は標準的な大きさ18個が入るコンテナに納め、平田学芸員が今一度本体・ラベルを確認し、番地の定められた収蔵棚に納めます。そして一般市民の利用のための登録作業が始まります。収蔵棚に収まった標本はもう一度引き出され、種名、産地、形状、個数、産出状況などを登録する作業が新たに始まります。

ボランティア仲間と共に、もう一度櫻井鉱物コレクションに触れる恵みを楽しまたいと願っています。

「地質と自然の旅」の情報交換

友の会 戒能康夫

私は、今年から友の会会員になりました。会員になったのは、数年前仕事で博物館に行った時に、展示内容、出版物、スタッフの充実ぶりに驚いたのと、ホームページもすばらしかったからです。

私は、15年ほど前から、仕事の関係で海を中心とした地球・天体観測の機関に出入りするようになり、6年ほど前から、趣味として地質と自然の旅を続けています。年間、平均50日ほどの野外生活を続けています。これまで収集してきた野外観察記録、写真、岩石サンプル、資料などがある程度たまってきたので、昨年パソコンを購入し、記録整理を行いました。資料のデータベース作成、写真のCD-ROM化を進め、情報公開、情報交換できそうな状態になりました。

「地質と自然の旅」に関心のある方、ホームページで情報交換を行っていただける方は、下記に連絡を下さい。Eメールもお待ちしています。

気分転換の場としての博物館

友の会 府川博司

私は当博物館のリピーターを自認する者です。無粋ながら、博物館再訪の動機として、「気分転換」がその筆頭に挙げられます。仕事など気忙しい日常生活の中で疲労が溜まり、倦怠感を強く感じる時などは無性に当博物館に出かけたい衝動に駆られます。実際、入館して、偉大なる地球のメカニズムや地球起源の鉱物・岩石あるいは生物など自然が見せる悠久さ、雄大さ、多彩さ、それに繊細さなどを、ジオラマや各種映像装置、展示標本等を介して巨視的・微視的に追っている内に、不思議とうっ積していた倦怠感がやわらぎ、スッキリした気分になってくるのを感じます。

また“さざれ石の巖となりて苔のむすまで”の古歌にみる悠久なる時間感覚の巧みな表現や“閑かさや岩にしみいる蟬の声”の句にみる繊細な情景描写に、先人の、岩石に寄せる粋な観察眼とセンスを覚えます。

この様な一種の『石文化』の感慨にひたり、気分をほぐす場としても当博物館内の空間は、自然探勝や観察会の現地(野外博物館)にも匹敵するようです。

友の会 行事報告

<友の会事務局会議報告>

第13回 2月6日 友の会12名 博物館1名

- ・各企画の報告と来年度の計画紹介
- ・友の会総会について(別紙参照)
- ・館の町田部長から「友の会コーナーを誘導案内ボランティアにも共用させてほしい、県の監査で友の会を紹介したい」の話があり、いずれも了承した。
- ・来年度の鉱物連続講座、加藤先生のご挨拶
何か得る物が有りそうな期待を呼ぶご挨拶でした。

<オープンラボの勉強会始まる!>

1/10(顕微鏡の取扱い—動物の毛の観察—)

意外に良く見えて驚き。剥製の下って、意外と毛が落ちてくるものなんですね。館内で集めました。

空を飛ぶ鳥(フラミンゴ)、水中を泳ぐ鳥(ペンギン)、陸を走る鳥(ヒクイドリ)の羽の肉眼では見えない構造の違いが良く分かりました。

2/13(昆虫の標本作成)

オオクワガタや、ヒラタクワガタがパズル状態で十数匹が登場。クワガタに集中するかと思いきや、スズメバチにも人気! この日はテレビ朝日の取材があり、2/19の『あまから問答』という番組で紹介されました。小学生スタッフが活躍しました。

(横浜市立保土ヶ谷中3年 稲垣香穂里)

3/13(チョウの標本作成)

ギフチョウ等アゲハチョウ類の標本完成(たぶん...) 夏のオープンラボで説明見本に使う予定です。

スタッフ紹介

総勢が50名になりました。小中学生が8名、最年少は5才の難波周作さん、最年長は××才の〇〇さん。昨年夏のプランクトン観察会に参加、その後スタッフになった矢野さんのお便りです。



顕微鏡でみると、スポイト一滴の水の中にもいろいろな生物がいて不思議です。ミカヅキモやクンショウモのようにきれいなものもあれば、ゾッとするほど不気味なヒドラやミズミズもいます。ある時はワムシが10秒ぐらいでケイソウをのみこんでしまうのを見ました。顕微鏡をのぞきながらスケッチをしたり、図鑑を見たり、図書館で調べたりして夏休みの自由研究にしました。

(三島市立沢地小5年 矢野 義尚)

始めて



<鉱物研究講座 博物館・友の会共催>

有名な鉱物学者の加藤昭先生と、平田学芸員、友の会スタッフ3名(新藤・長山・蛭子)を含む40名が参加。

2/20は大黒山の堆積岩や断層、超塩基性岩体など鉱物を見ながらの講義。この種の参加は初めてという方も多く、年齢もさまざま世の中のニーズに驚く。

翌日は快晴、大黒山でサメの歯化石発見で大いにわく。砂岩、凝灰岩、礫岩の見方、正断層、逆断層等を観察し、超塩基性岩体の現場へ移る。橄欖岩(蛇紋岩)、斜方輝石橄欖岩(ハルツベルグ岩)、苦土角閃石斑礫岩(変斑礫岩)とそれらに随伴する20数種の鉱物、さてこれらの判別は??? 

思いなしか重そうなりゅックが目についた帰路。(友の会 蛭子貞二)

<第30回 サロン・ド・小田原>



2/25は「磯の動物いろいろ」現在開催中の特別展「カニの姿—酒井コレクションから—」の企画者である村岡健作学芸員から、旧県博時代から収集した資料にまつわる興味深いお話を聞きました。

参加者20名(博物館14名、友の会6名)

相模川ふれあい科学館の見学と相模川観察

2/27は新井・広谷学芸員と市民ネットワーク・相模川ボランティア4名を含む計20名が参加。

相模川ふれあい科学館の竹嶋所長さんに館内を案内して頂き、全長40mの水槽「流れのアクアリウム」にびっくり。また新井学芸員のミヤコタナゴの引越し事情話など、生態系の大切さを知りました。

相模川ではカワウ、コサギ、ハクセキレイ等が見られ、コアジサシの繁殖に良さそうな所もありました。

地元のボランティアの方から河川環境の話も聞き有意義な楽しい一日でした。(友の会 陶山幸子)

丹那断層地形観察会

3/7は、天気下り坂で午後から雨の予想のため、やむなく中止。あちこち電話をしたり、返信はがきを書いたりで大忙しでした。再実施は3/14です。

皆様のたくさんのご協力、ありがとうございました。
来年度もどうぞよろしく



友の会 行事予定

あなたも参加してみませんか？

行事への参加申込み方法

はがき（あるいは往復はがき）に企画名、会員番号、参加者全員の氏名、性別、年齢、住所、電話番号を明記の上、〒250-0031 小田原市入生田499

神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会事務局へ

各部の会議のお知らせ

自然倶楽部：4月10日（土）10:00～11:00

事務局会議：4月10日（土）11:00～12:00

場 所：博物館2階友の会コーナー

総 会：4月10日（土）13:00～ 別紙参照

次回のサロン・ド・小田原

講 演：「干潟にすむカブトガニの子どもたちの生活
-あまり知られていないその生態について-」

演 者：日野明日香さん（東京大学大学院 在学中）

日 時：3月25日（木）18:00～19:00 講演

19:00～20:00 茶話会（参加費1,000円）

場 所：博物館1階講義室

申込み：3月24日（水）まで（茶話会への出欠を明記）

日野さんは、3年前から、大分県杵築市でカブトガニ幼生の生活史を地元の研究者と共同調査中です。

荒崎海岸地層構造観察会

荒崎海岸は関東大震災（1923）の時隆起した海食台が発達し、堆積層の構造がよく観察できます。

4月17日（土）10:00～12:00 事前講義 講義室

4月18日（日）京急三崎口駅前9:30 集合 巡検

講 師：平田大二（学芸員）

定 員：30名（小学生は保護者同伴）

費 用：資料代300円（保険料を含む）

申込み：3月24日までに往復はがきで事務局へ

問合せ：新藤誠一郎

水辺の生物観察会

—用水路の観察会・オープンラボ共催—

春の水辺で魚、水生昆虫、水草などを観察します。

午後は博物館でプランクトンの観察をしませんか。

日 時：4月25日（日）10:00～12:00

13:00～ 実習実験室でプランクトンの観察（希望者）

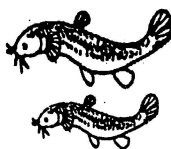
集 合：小田急富水駅10:00 集合

講 師：瀬能学芸員（魚類）・苅部学芸員（昆虫）

費 用：資料代200円（保険料を含む）

定 員：30名（小学生は保護者同伴）

申込み：3月24日までに往復はがきで事務局へ



申込み：3月31日までに往復はがきで事務局へ

自由研究相談室とオープンラボ

夏に向けて打合わせと勉強会を行ないます。

5月8日（土）10:00～12:00 打合せ

13:00～15:00 プランクトンの観察

場 所：3階実習実験室

ウォンテッド クマムシ!!

史上最強の生き物、英語ではウォーターベアと呼ばれるクマムシと一緒に探しましょう。顕微鏡で。

日 時：6月12日（土）10:00～15:00

場 所：3階実習実験室

講 師：小田部家邦（プランクトン講師）

出川洋介（学芸員）

定 員：20名

資料代：200円

申込み：5月8日までに往復はがきで事務局へ

問合せ：町田 誠

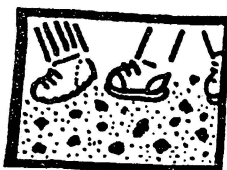


早川下流域の水辺観察会

アユ、水生昆虫、植物を観察しながら散策します。

日 時：5月22日（土）9:30～15:00 別紙参照

来年度の博物館主催講座 先取り情報



「神奈川の自然を歩くシリーズ」

「鉱物研究者養成講座」

共にスタッフを募集中です。

詳細は企画普及課まで。別紙参照

原稿募集 随時受付

博物館へのおもい、Q&A、身の回りで起きたでき事など、ご意見・ご感想をお待ちしています。

友の会の新しい企画もお待ちしています

博物館の事業とはひと味違う、楽しく個性的な企画をお寄せください。企画者は、「こんなことがしたい」「こんな仲間を募りたい」などとまとめたものを事務局までお送りください。

博物館のURLと電子メールの宛先は下記の通り

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/museum/g.html>

plan@pat-net.ne.jp